

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	田原宏志朗		
所属	理工学府機械・材料・海洋系工学専攻	学年	修士1年
派遣先大学	インド工科大学カンプール校		
期間	2024/09/06-2024/09/17		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

主に研究室で活動していました。初日にいくつかの研究室を紹介してもらい、その中から興味のある研究室を選んで1週間滞在しました。私はかつて横国で助教をされており、私の指導教員の先生とともに研究をされていた先生を紹介していただき、自身の研究内容とかなり近い内容について学ぶことができました。研究についてだけではなく、住居や寺院などまですべて用意されている学内を案内してもらったり、院生向けの授業に参加させてもらったりしたことでインドの大学の体制や構造も知ることができました。語学に関しては、少し癖のあるインド英語を聞くのに最初は苦しみましたが、慣れてくると専門的なディスカッションや日常会話を楽しむことができました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドで日本の外について知ることは、同時に日本について考え直すことだと感じました。衛生的な面や時間の感覚など、いかに日本がきれいできちりしているかを実感しました。また、特に感じたのは政治や宗教的なことに関するインド人と日本人の意識の差です。ほとんどのインド人学生が、「広島」「長崎」という地名を知っていて、原爆や戦争に関する意見をしっかり持っていました。彼らはインドの宗教的な事情にも詳しく説明できる一方で、「日本の宗教はどうなんだ？」と聞かれても私ははっきり説明できず、日本について知っているようで知らないのだと感じました。いくつかの観光地を訪問することもでき、インドという国の大きさ、言語や文化の多様性を実感しました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

ほぼ海外経験のない私にとってインドへの渡航はかなり不安でしたが、行ってみれば楽しく多くを学べる10日間でした。学年によっては夏インターンの時期と被りますが、それでも行く価値のある貴重な経験だと思いますし、企業もこのプログラムへの参加を考慮してくれることがあります。少しでも興味があれば参加することをお勧めします。



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	島生成		
所属	環境情報学府人工環境専攻	学年	博士課程前期 2 年
派遣先大学	インド工科大学カンプール校		
期間	2024/09/06~2024/09/16		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

言語について、現地でのコミュニケーションを通じて、英語でのコミュニケーション能力を向上させることができました。現地の人々と英語で会話した際、早くて聞き取れないこともありましたが、そのような時は、相手が話した内容の意味を確認しました。また、初めの数日は、自分の意見が相手にうまく伝わらず、苦労しましたが、簡潔な英語表現や言い換えなど、相手に理解してもらえる工夫をしました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

日本とインドの食文化の違いが、特に興味深いと感じました。インドではノンベジタリアンとベジタリアンの区分が存在すること、左手を食事で使用しないこと、スパイシーな味付けなどの日本との違いを感じる点が多くありました。何人かの学生と一緒にオススメの料理を食べ、現地の食文化への理解を深めることができました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

私は SKIP のプログラムで初めて海外にいきましたが、自身と異なる文化的、社会的背景を持つ人々との交流は非常に楽しく、海外への興味・関心が高まりました。また、海外の大学の同じ研究分野の学生とじっくりと交流する機会は大変貴重なものであったと思います。海外に少しでも興味のある方はぜひ参加してほしいと思います。



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	関 草太		
所属	理工学部 機械・材料・海洋系学科 機械工学 EP	学年	4
派遣先大学	IIT Kanpur		
期間	2024 09/06 - 2024 09/17		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

滞在していた研究室は私の専門分野とは違ったが、同じ数値解析ソフトを用いていることもあり質問を何回も重ねる中で理解を進めることができた。ジェスチャーを交えながらキーワードを伝えあい、互いの認識の違いを埋めていく過程の楽しさを知ることができた。私の研究内容についてもディスカッションを重ねる中で、当時悩んでいた解析結果の評価方法に関してのアイデアを提案していただき、帰国後の方針を立てることができた。全力で学び全力で遊ぶ IITK の学生に大きな刺激を受け、帰国後学びに対するモチベーションが上がっている。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

時間に対するおおらかな感覚や、街の雰囲気、水回りなど驚くことだらけだった。政治、原爆、原発など日本では話題に上がることが少ないトピックについての考えを聞かれることが多かったのも印象的だった。国土が広く人口が多い中で、他者を尊重し共存していくためには相手を知り、互いの考えを認め合うことが大切なのだと感じた。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

これまで訪れたことのある国とは全く違う文化、環境に驚き、いい意味で価値観を大きく破壊される体験になった。現地の人に行ってみたい場所等を事前に伝えておくと、休日や夜に連れ出していただけかもしれない。自分から行動を起こすことでより充実した滞在になると思う。

